

平成26年4月18日



# 研究だより

第39号

自治医科大学附属さいたま医療センター



## 「人生・研究万事塞翁が馬」、だから面白い！

医療安全管理室 教授 遠山信幸

結果には必ず原因がある。たまたま起こったことにしても、偶然起こったことにしても、そうなるには原因がある。

私は自治医大卒業生（6期生）である。埼玉県出身（今は出身高校か自宅のどちらかが埼玉県内であれば埼玉での受験可能となるが、当時は出身高校のみで決まっていた。ちなみに私は生まれが川口で高校は浦和。）のため、卒業後は埼玉県に戻り義務年限の9年間を果たすことになっていた。臨床医として、外科医として、地元埼玉の地域医療に貢献することが夢であり、自治医大を選択した理由もそこにあった。

さいたま日赤で後期研修中（7年目）のある晩、自宅に県庁の担当者から電話があった。「大宮に新しく自治医大の医療センターができるので、大学院に行きませんか？ぜひ行ってください。」と。私は耳を疑った。義務年限はまだ2年以上残っている。日赤の外科部長からは義務明け後はうちに来いと誘われていた。大学からは特に話は聞いていない。「本当？いいの？」

県庁がいいと言っている（行けと言っている）し、両親や妻にも相談し、せっかくのチャンスだからと背中を押してもらった。母校に対する愛情も当時強かった（今でも）。卒業生の集まりでもお話しして許可も得た。寝耳に水、瓢箪から駒。一度しかない人生、いろいろなことを経験するのもいいかなと考え、県庁を退職し、1990年4月当時まだ出来たばかりの当センター総合医学講座Ⅱの大学院生（第1号）となった。

来てみてびっくりした。何も無い。人もいない。物もない。蛍光灯もない。研究のケの字もない。当たり前である。開院してまだ4カ月。私も困ったが、当時のM教授やS医局長も困ったことだろう。結局1年目

は飯能市立病院への派遣となった。これでは義務年限消化と同じである。市立病院とはいえ、常勤医は内科2名で外科医の私（しかも非常勤扱い）を入れても医師は3名しかいなかった。それでも地域は楽しかった。

そうこうするうち、新潟県出身の本校卒業生（5期生）である小林英司先生からお声がかかった。新潟大学で基礎研究のベースがある先生は、義務明け後、M教授のもと当センターに来られ、本格的な研究体制を立ち上げることになった。とはいえ、0からのスタートである。小林先生と私は東京の世田谷にあった国立小児医療研究センターに通い、実験外科の鎌田直司先生のもと移植免疫の研究をスタートした。鎌田先生は世界で初めてラットの同種間肝移植を成功し、免疫抑制剤なしで生着する現象を報告された方である。私は小林先生の御指導のもと、テーマとして小腸移植を選んだ。短腸症候群に対する唯一根治的な治療が小腸移植であるが、小腸は最も拒絶反応の強い臓器であり、そのコントロールがなされないと生着が難しい。まずはCuff techniqueという簡便な手技によるラット血管再建モデルを開発し、何百匹というラットの小腸移植を行った。日赤時代に付き合いのあった某内視鏡メーカーから細径内視鏡を拝借し、同種移植小腸の拒絶過程を内視鏡と病理検査で経時的に観察検討した。結果は予測通りのものであり、研究開始から半年ほどで成果が出、論文投稿→採択となった。当時、移植小腸の内視鏡観察の報告はなく、私の報告が世界初となった。後日、この研究で運よく学会賞もいただいた。

その後、肝臓小腸同時移植の研究（肝臓を先行して移植しておくとも小腸が拒絶されない）やGVHDの研究

などを行ったが、鎌田先生と小林先生がオーストラリア・ブリスベーンのクイーンズランド医学研究所QIMRに移られたため、私も1992年12月から1993年12月まで留学の機会をいただいた(写真1)。家族とともに異文化交流を十分に体験できたが、研究はいかにも南国的であり、のんびりとした環境であった(研究は寒いところに限る?)。

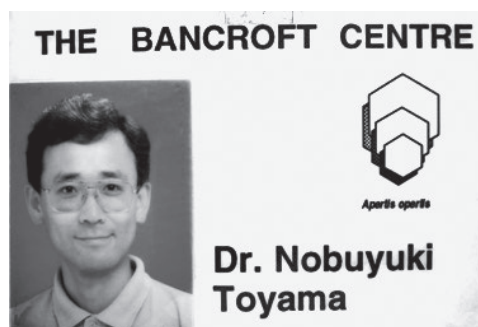
帰国後1994年に大学院を修了し、外科医として当センターで勤務させていただくことになり、研究からは徐々に離れて行った。外科ひいては当センターの発展のため、地域のため、がんばった(つもりである)。岩手県の町立病院や飯能市立病院にも再出向した。いろいろな人と出会い、いろいろなことを経験させていただき、2013年には医療安全管理室教授を拝命した。

私にとってはひょんなことから研究生活の機会が舞い込み、それがきっかけでその後の当センター勤務となったが、「人生万事塞翁が馬」。果たしてラットの臓

器移植の経験は今も役立っているのだろうか?きっと役に立っているに違いない。研究の重要性、大変さも勿論よくわかっているつもりである。

写真1.

大学院QIMR留学時代(1993年)のIDカード  
(研究所にはバンクロフト糸状虫で有名なBancroft先生の冠がついている)



## 研究の成果

### 総合医学 1

#### ■ 循環器科

・2014年1月～、及び前回未掲載分

#### 【原著論文】

- 1) Nakagawa, T., Wada, H., Sakakura, K., Yamada, Y., Ishida, K., Ibe, T., Ikeda, N., Sugawara, Y., Ako, J., and Momomura, S.: Clinical features of infective endocarditis: Comparison between the 1990s and 2000s. *J Cardiol.* 2014 Feb; 63 (2): 145-148.
- 2) Sasai, H., Sakakura, K., Yuri, K., Wada, H., Arao, K., Funayama, H., Sugawara, Y., Yamaguchi, A., Adachi, H., Momomura, S., and Ako, J.: Fractional flow reserve for a mild stenosis on the donor artery to chronic total occlusion. *Cardiovasc Interv Ther.* 2013 Apr; 28 (2): 193-6.
- 3) 平田浩三, 小嶋 巖, 百村伸一: 坐位患者における中心血圧とaugmentation indexの非侵襲的推定 - 2種類の市販機器の有効性評価研究. *Arterial Stiffness* 2013; 19: 58-59.

#### 【著書・総説】

- 1) 三橋武司: 不整脈デバイス治療の最新のエビデン

- ス *Heart View* 2013. Vol.10 37-45.
- 2) 三橋武司, 百村伸一: CRT-P/Dの手技: 原理 *Circulation Up-to-Date* 2013 Vol.8 16-20.
- 3) 三橋武司, 百村伸一: CRT-P/Dの手技: 適応 *Circulation Up-to-Date* 2013 Vol.8 21-28.
- 4) 百村伸一: 新たな心不全治療法としてのASV *心臓* 2013第45巻第5号 624-625
- 5) 百村伸一: 心不全患者に対する非侵襲的薬物治療の展開 *Medical Science Digest* 2013 Vol.39 (7) 12 (306) -15 (309)
- 6) 百村伸一: 二次性高血圧—疑うポイントと専門医紹介のタイミング *睡眠時無呼吸症候群 (SAS) 日本医師会雑誌生涯教育シリーズ—84 (2013) 高血圧診療のすべて* 第142巻特別号292-293
- 7) 百村伸一: 心不全と飲水制限 *Fluid Management Renaissance* 2013. 11Vol.3 No.4 76 (404)-81 (409)
- 8) 百村伸一: ASVを科学する *呼吸と循環* 2014第62巻第2号別冊182-186
- 9) 石田弘毅, 山田容子, 百村伸一: 「循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン」の要点 *日本臨床* 2013第71巻増刊号5 最新臨床睡眠学—睡眠障害の基礎と臨床— 340-348
- 10) 藤田寛奈, 和田 浩, 百村伸一: 心不全治療における強心薬の位置づけ *循環器内科* 第75巻第2号 特集/循環器疾患薬物療法と臨床薬理学 (科学評論社)

【学会発表】

- 1) 三橋武司, 堀中繁夫: 栃木県の実地医家による心房細動患者診療の現況 第30回日本心電学会学術集会, 青森, 2013年10月11-12日.
- 2) 三橋武司, 清水昭彦, 上山 剛, 関口幸夫, 西井伸洋, 古嶋博司, 真中哲之, 横式尚司: 我が国におけるCRTの現状-JCDTRレジストリーから第17回日本心不全学会学術集会, さいたま, 2013年11月28-30日.
- 3) 上羽洋人: Helix B surface peptide, a nonerythropoietic erythropoietin derivative, modifies macrophage polarization and prevents progression of coronary atherosclerotic lesions. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2014), 東京, 2014年3月22日.
- 4) Ishida, K., Wada, H., Sakakura, K., Ikeda, N., Sugawara, Y., Mitsuhashi, T., Aiko, J., and Momomura, S.: Relationship of Indoxyl Sulfate to Renal and Cardiac Function. The 78<sup>th</sup> Annual Meeting of Japan Circulation Society March 22, Tokyo, Japan.
- 5) Ibe, T., Wada, H., Sakakura, K., Ikeda, N., Sugawara, Y., Mitsuhashi, T., Aiko, J., and Momomura, S.: Pulmonary Hypertension in Patients with Left Heart Disease: Comparison Between Trans-pulmonary Pressure Gradient and Diastolic Pulmonary Vascular Pressure Gradient. The 78<sup>th</sup> Annual Meeting of Japan Circulation Society March 21, Tokyo, Japan.
- 6) Yamada, Y., Wada, H., Sakakura, K., Ikeda, N., Sugawara, Y., Mitsuhashi, T., Aiko, J., and Momomura, S.: Associations between Aldosterone Antagonist Therapy and Risks of In-hospital Death and Re-admission among Acute Decompensated Heart Failure with HFPEF. The 78<sup>th</sup> Annual Meeting of Japan Circulation Society March 21, Tokyo, Japan.
- 7) 三橋武司: デバイス治療の今やこれが常識? 第31回機器研修会主催不整脈セミナー, 千葉, 2013年10月27日.
- 8) 三橋武司: Pace maker/CRTのケーススタディー SJMアリスミアアカデミー, 東京, 2013年11月9日.
- 9) 三橋武司: 心房細動患者におけるこれからの抗凝固療法 第3回心房細動と脳塞栓症を考える会, 宇都宮, 2013年11月20日.
- 10) 菅原養厚: トルバプタンの使用経験について 第2回豊後大野市Vasopressin Conference, 大分, 2013年12月12日.
- 11) 百村伸一: 睡眠時無呼吸と循環器疾患 鳥取東中部地域医療研究会, 鳥取, 2013年12月20日.
- 12) 菅原養厚: 心不全の新たな治療戦略~利尿薬を用いて~ 第3回心不全ミーティングin小山, 2014年1月24日.
- 13) 百村伸一: 薬剤とCRTデバイスにおけるハイブリッド治療 Medotoronic CRT Winter Meeting, 札幌, 2014年2月8日.
- 14) 百村伸一: 心不全治療機器としてのオートセットCS (ASV) の可能性 ASV Small Meeting in 新潟~心不全の循環動態改善を目指して~ 新潟, 2014年2月10日.
- 15) 百村伸一: 見直すべき $\beta$ 遮断薬治療—“適材適所”— $\beta$ 遮断薬の真のパラダイムシフト, さいたま, 2014年2月19日.
- 16) 三橋武司: 心房細動レートコントロールと $\beta$ 遮断薬  $\beta$ 遮断薬の真のパラダイムシフト, さいたま, 2014年2月19日.
- 17) 百村伸一: 心房細動に心不全を合併した症例の最適な治療法は? Ablate&CRT 第6回植込みデバイス関連冬季大会, 広島, 2014年2月22日.
- 18) 明石直之: 心不全に伴う高度の中枢性睡眠呼吸障害が至適薬物療法介入によって改善した1例 第1回心不全治療フォーラム, 東京, 2014年2月22日.
- 19) 船山 大: PADガイドラインに基づいた薬物治療戦略 第3回EPAシンポジウム, さいたま, 2014年2月26日.
- 20) 中川十夢, 和田 浩, 瀬口 優, 米津圭祐, 松田淳, 池田奈保子, 菅原養厚, 三橋武司, 百村伸一: 当院における頻脈性不整脈を合併する心不全に対するランジオロールの使用経験 オノアクト効能追加記念講演会in埼玉, さいたま, 2014年2月28日.
- 21) 三橋武司: 心房細動とこれからの心房細動 抗凝固療法 Network meeting in 小山, 2013年10月25日.

【研究会】

- 1) 三橋武司: 心房細動の戦略的治療 第213回栃木県臨床循環器談話会, 宇都宮, 2013年10月17日.
- 2) 三橋武司: 心房細動におけるこれからの抗凝固療法 抗凝固療法 Network meeting in 三郷, 2013年10月22日.
- 3) 三橋武司: 心房細動とこれからの心房細動 抗凝固療法 Network meeting in 小山, 2013年10月25日.



## ■ 消化器科

## ① 学会、講演会、研究会への出席、発表の日程、概要（2013年12月～2014年3月）

- 1) 長谷川宏子, 小林瑠美子, 浅野岳晴, 石井剛弘, 吉川修平, 大竹はるか, 上原健志, 新藤雄司, 山中健一, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 福西昌徳, 岩城孝明, 鷺原規喜, 浅部伸一, 宮谷博幸, 吉田行雄. 濱本耕平, 松浦克彦. 多発肝腫瘍を合併した門脈下大静脈シャントに対しコイル塞栓術を施行しえた一例. 第327回日本消化器病学会関東支部例会 抄録集39p 2013. 12. 7 東京
- 2) 松本博成, 石田茂夫, 宮谷博幸, 吉田行雄. 「大腸内視鏡引き込み式挿入法」"hooking the fold法"を容易にするスカート型, 羽型内視鏡装具の開発. 第97回日本消化器内視鏡学会関東地方会 Progress of digestive Endoscopy2013: 84 (suppl): 87. 2013. 12. 14 東京
- 3) 松本吏弘. 潰瘍性大腸炎における増悪入院および手術に影響を与える因子は何か? 第13回埼玉IBDカンファレンス. 2014年1月18日 さいたま市
- 4) 山中健一, 宮谷博幸. 閉塞性黄疸の1例. 第46回AYOカンファレンス 2014年2月20日 さいたま市
- 5) 宮谷博幸 上部消化管疾患の内視鏡診断. Omiya Surgent Network 2014年3月3日 さいたま市
- 6) 宮谷博幸 当センターにおける小腸疾患診療. 第5回埼玉GIフォーラム 2014年3月12日 さいたま市
- 7) 宮谷博幸 当センターにおける消化器内視鏡最近のTopics. さいたま地区病診連携会 2014年3月13日 さいたま市

## ② 原著その他論文（2013年12月～2月）

- 1) Matsumoto S, Yoshida Y. What are the factors that affect hospitalization and surgery for aggravation of ulcerative colitis? Eur J Gastroenterol Hepatol. 2014; 26: 282-7
- 2) Matsumoto S, Yoshida Y. Indian J Gastroenterol. Efficacy of endoscopic screening in an isolated island: A case-control study. Indian J Gastroenterol. 2014; 33: 46-9.
- 3) Matsumoto S, Ishikawa S, Yoshida Y. Reduction of gastric cancer mortality by endoscopic and radiographic screening in an isolated island: A retrospective cohort study. Aust J Rural Health. 2013; 21: 319-24.

## ■ 呼吸器科

平成26年1月～26年6月

## 学会参加

- 1) 日本呼吸器学会 2014/4/25-27 大阪 座長
- 2) 日本内科学会総会 2014/04/11-13 東京
- 3) 日本結核病学会総会 2014/04/09-10 岐阜
- 4) 日本アレルギー学会春季臨床大会 2014/05/09-11 京都

## 学会発表

- 1) 岩井悠希, 野村基子, 白石 守, 三輪千尋, 渡辺恭孝, 小山信之, 小山信一郎. Kartagener症候群の治療経過中に気管支内粘表皮瘤を合併した一例. 第65回日本気管食道科学会総会 2013/10/31-11/1, 東京 p129
- 2) 渡辺恭孝, 小山信之, 岩井悠希, 野村基子, 白石守, 三輪千尋, 小山信一郎. 切除不能進行肺癌に対するゾレドロン酸投与治療の臨床的検討. 第54回日本肺癌学会総会 2013/11/21-22, 東京 p555

## 原著

- 1) 藤原尚子, 三輪千尋, 岩井悠希, 野村基子, 白石守, 渡辺恭孝, 小山信一郎. 肺原発と思われた印環細胞型腺癌の気管・気管支内転移の一例. 気管支学 2013; 35: 493-498

## 学会・地方会・研究会発表

- 1) 野村基子, 渡辺恭孝, 白石 守, 三輪千尋, 小山信之, 小山信一郎. 蛋白尿を呈した肺腺癌術後再発の癌性胸膜炎に対してペバシズマブ併用化学療法が有効であった1例. 第205回日本呼吸器学会関東地方会. 2013/07/13 東京
- 2) 小山信一郎. 埼玉PH講演会. Physiology in Pulmonary circulation. Old or new? 2013/07/17 さいたま
- 3) 小山信一郎. COPDの併存症・気管支喘息の診断と適切な治療. 春日部市薬剤師会研修セミナー 2013/07/29 春日部 講師
- 4) 小山信一郎. 第18回3学会合同呼吸療法士認定講習会 2013/08/28 東京 講師
- 5) 小山信一郎. 講義14, 呼吸機能検査. 第3回呼吸治療関連指定講習会. 2013/09/28 東京 講師
- 6) 小山信一郎. 25年度第一回肺癌検診症例検討会 2013/10/29 講師
- 7) 小山信一郎. さいたま記念病院健康講座. 冬の感染症「インフルエンザとノロウイルス」.

- 2013/11/09、さいたま 演者
- 8) 小山信一郎。COPD summit. 2013/11/23 東京、参加
  - 9) 小山信一郎。第28回関東呼吸器研究会。2013/11/27 さいたま 幹事
  - 10) 小山信一郎。「喘息の病態と薬物療法」さいたま市薬剤師会研修会 2014/01/30 さいたま 演者
  - 11) 小山信一郎。「気管支喘息」第20回アレルギー週間市民公開講座2014 2014/02/01 さいたま 演者
  - 12) 小山信一郎。「肺がん検診における胸部X線検査の判定基準と指導区分」。平成25年度肺がん検診学術講演会。大宮医師会講演会。 2014/02/07 さいたま

## ■ 内分泌代謝科

平成26年1月 - 3月の学会発表です。

- 1) 石川三衛：心疾患におけるバソプレシン分泌異常厚生労働省難治性疾患克服事業間脳下垂体機能障害に関する調査研究班平成25年度班会議 2014年1月10日 東京都
- 2) 生駒亜希, 山田穂高, 吉田昌史, 浅野智子, 青木厚, 草鹿育代, 豊島秀男, 加計正文, 石川三衛：糖尿病ケトアシドーシス回復期に一過性心虚血と横紋筋融解症を呈した劇症1型糖尿病の1例 第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2014年1月18日 横浜市
- 3) 石井剛弘, 吉田昌史, 山田穂高, 浅野智子, 青木厚, 生駒亜希, 草鹿育代, 豊島秀男, 加計正文, 石川三衛：妊娠, 出産後にインスリノームと診断された1例 第51回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2014年1月18日 横浜市
- 4) 青木厚, 山田穂高, 吉田昌史, 浅野智子, 生駒亜希, 草鹿育代, 豊島秀男, 加計正文, 石川三衛：思春期に発見された下垂体巨人症の1例 第23回臨床内分泌代謝Update 2014年1月24-25日 名古屋市
- 5) 船崎俊介, 山田穂高, 浅野智子, 吉田昌史, 青木厚, 生駒亜希, 草鹿育代, 豊島秀男, 加計正文, 石川三衛：DKAに合併した成人小腸重積の1例 第23回臨床内分泌代謝Update 2014年1月24-25日 名古屋市
- 6) 石川三衛：Update講演：SIADH 第23回臨床内分泌代謝Update 2014年1月24-25日 名古屋市

2014年に当科が主催する学会です。

- 1) 第15回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2014年9月5 - 6日 ラフレさいたまで開催予定です。
- 2) 第24回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update「Common diseases と内分泌学の接点」をテーマにした臨床内分泌代謝学の全国大会です。2014年11月28-29日 大宮ソニックシティで開催予定です。

## ■ 血液科

2013年4月から2014年3月の間に発表した研究成果をご紹介します。多くは臨床研究ですが、BSL棟での基礎研究に基づく論文も含まれています。以下のリストに列挙した38編の英文論文はいずれも血液科のメンバーがかかわった論文ですが、その中で当科が研究の中心となっているのは27編です。これらの論文からいくつかを取り上げて紹介します。

2番の論文は多施設共同で行った医師主導治験の結果を報告したものです。一般の臨床試験ではなく、「治験」、すなわち医薬品の薬事法上の承認を得るために行った臨床試験です。市場が小さいがために製薬会社主導の治験が成立せず、平成15年のGCP (Good Clinical Practice) の改正によって可能となった医師主導治験制度に則って実施しました。対象薬はアレムツズマブというヒト化抗CD52モノクローナル抗体です。CD52分子は主にT細胞、B細胞、単球、マクロファージなどに発現している21~28 kDの細胞表面糖タンパク質であり、アレムツズマブは強力なリンパ球溶解活性を示すことから、欧米で慢性リンパ性白血病 (CLL) の治療薬 (商品名：キャンパス) として承認されていますが、私たちはそのリンパ球抑制作用に注目して、同種造血幹細胞移植における移植片対宿主病 (GVHD) の予防薬として用いる治験を行いました。再生不良性貧血に対する同種移植でのGVHD予防と、HLA不適合移植でのGVHD予防の2つの治験を実施し、いずれにおいてもほぼ完全なGVHD予防効果を示すことに成功しました。この結果を受けて、医薬品としての承認のための申請を計画しています。ただし、移植後の免疫回復が遅延することにより、サイトメガロウィルスの再活性化の増加や、造血器腫瘍の再発の増加の可能性が危惧されますので、現在はアレムツズマブの量をさらに減量した臨床試験を実施しています。アレムツズマブは多発性硬化症 (MS) の治療薬 (商品名：レムトラダ) としても開発が進んでおり、インターフェロンβ-1aを週に3回ずつ投与する対照群と比較して、アレムツズマブを1年に1回 (3~5日間) 投与するだけでMSの再発を有意に低減できる

ことが示されました。しかし、インターフェロン1年分を上回る効果のためにレムトラダに高い薬価が設定され、同一薬品であるキャンパスとの間に大きな薬価の差が生じてしまい、キャンパスは販売停止となって米国で無償提供プログラムが行われています。

38番の論文は造血幹細胞移植における抗菌薬の予防投与の意義を検証するメタアナリシスです。PubMed, the Cochrane Library, EMBASE, CINAHLなどのデータベースから17件の無作為割付比較試験(1453症例を含む)を同定し、統計学的に統合しました。その結果、抗菌薬の予防投与によって発熱イベント、臨床的あるいは微生物学的に同定された感染症、菌血症は減少するものの、全死亡、感染症感染死亡の減少にはつながっていないという結果でした。ただし、死亡減少効果が見られなかった点については統計学的な検出力が不十分であった可能性を否定できません。

血液科ではシニアレジデントを含めて全医師が独自の研究テーマを持って臨床研究に取り組んでいます。そして、臨床研究を効率的に進めるために、無料統計解析ソフトEZRの改善を重ねています。前述のメタアナリシスもEZRで解析しています。最新版ではマウスで表示させたい項目を選択するだけで患者背景のサマリー表を簡単に作成できる機能を追加しました(亀田総合病院からHarvard School of Public Healthに留学中の吉田和樹先生が作成されたtableoneパッケージを利用しています)。群馬大学、神戸大学、京都府立医科大学、愛知医科大学、高知大学、東京大学医科学研究所、都立駒込病院、国立がん研究センターなどの様々な施設の統計学講義に採用されています。興味のある方は以下のページからダウンロードしてください(<http://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>)。

BSL棟の研究室では引き続き移植免疫、腫瘍免疫の基礎研究を行っています。11番の論文は免疫グロブリンのアロタイプ(免疫グロブリン重鎖固定領域の遺伝子多型)を利用して、造血幹細胞移植後の患者およびドナー由来の水痘・帯状疱疹特異的抗体産生能を解析したものです。強力な移植前処置を用いた移植後は移植後早期に患者由来の抗体が検出できなくなったのに対して、移植前処置を軽減した、いわゆるミニ移植では、患者由来の抗体産生が移植後1年以上持続することがわかりました。また、ドナー由来の水痘・帯状疱疹特異的抗体は低値が持続しましたが、移植後の帯状疱疹発症後に著しい上昇が見られました。造血幹細胞移植後の抗体産生の変遷を示す興味深い論文です。平成26年度は新たに2名が大学院に進学し、大学院生は合計5名となります。免疫研究もさらに発展させていきたいと考えています。

最後になりますが、以下の論文の中には他科の先生方との共同研究も含まれます。今後も様々な診療科と共同研究を進めていきたいと思っておりますので、引き続きご指導のほどよろしくごお願い申し上げます。

#### 英文論文

- 1) Shinichi Kako, Heiwa Kanamori, Naoki Kobayashi, Akio Shigematsu, Yasuhito Nannya, Mika Nakamae, Kazuyuki Shigeno, Kazumi Suzukawa, Masahiro Takeuchi, Motohiro Tsuzuki, Kensuke Usuki, Kazuo Hatanaka, Kazuei Ogawa, Kinuko Mitani, Yuichiro Nawa, Yoshihiro Hatta, Ishikazu Mizuno, and Yoshinobu Kanda. Outcome after first relapse in adult patients with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukaemia. *British Journal of Haematology* 16 : 95-103,2013 (April)
- 2) Yoshinobu Kanda, Kumi Oshima, Shinichi Kako, Takahiro Fukuda, Naoyuki Uchida, Koichi Miyamura, Yukio Kondo, Shinji Nakao, Koji Nagafuji, Toshihiro Miyamoto, Mineo Kurokawa, Yasushi Okoshi, Shigeru Chiba, Yasuo Ohashi, Yoichi Takaue, Shuichi Taniguchi. In vivo T-cell depletion with alemtuzumab in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation : Combined results of two studies on aplastic anemia and HLA-mismatched haploidentical transplantation. *American Journal of Hematology* 88 : 294-300, 2013 (April)
- 3) Miki Sato, Hideki Nakasone, Kumi Oshima, Yuko Ishihara, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Koji Kawamura, Masahiro Ashizawa, Tomohito Machishima, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Aki Tanihara, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Prediction of transplant-related complications by C-reactive protein levels before hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 698-702, 2013 (May)
- 4) Yoshiko Atsuta, Junya Kanda, Minoko Takanashi, Yasuo Morishima, Shuichi Taniguchi, Satoshi Takahashi, Hiroyasu Ogawa, Kazuteru Ohashi, Yuju Ohno, Yasushi Onishi, Nobuyuki Aotsuka, Tokiko Nagamura-Inoue, Koji Kato, and Yoshinobu Kanda on behalf of the HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Different effects of HLA disparity on transplant outcome after single-unit



- cord blood transplantation between pediatric and adult patients with leukemia. *Haematologica* 98 : 814-822, 2013 (May)
- 5) Yoshinobu Kanda, Junya Kanda, Yoshiko Atsuta, Yoshinobu Maeda, Tatsuo Ichinohe, Kazuteru Ohashi, Takahiro Fukuda, Koichi Miyamura, Hiroatsu Iida, Takehiko Mori, Koji Iwato, Tetsuya Eto, Keisei Kawa, Satoshi Morita, Yasuo Morishima. Impact of a single HLA allele mismatch on the outcome of unrelated bone marrow transplantation over two time periods. A retrospective analysis of 3003 patients from the HLA Working Group of the Japan Society for Blood and Marrow Transplantation. *British Journal of Haematology* 161 : 566-577, 2013 (May)
  - 6) Hideki Nakasone, Saiko Kurosawa, Kimikazu Yakushijin, Shuichi Taniguchi, Makoto Murata, Kazuhiro Ikegame, Takeshi Kobayashi, Tetsuya Eto, Koichi Miyamura, Hisashi Sakamaki, Yasuo Morishima, Tokiko Nagamura, Ritsuro Suzuki, and Takahiro Fukuda. Impact of hepatitis C virus infection on clinical outcome in recipients after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *American Journal of Hematology* 88 : 477-484, 2013 (June).
  - 7) Hideki Nakasone, Junya Kanda, Shingo Yano, Yoshiko Atsuta, Hiroatsu Ago, Takahiro Fukuda, Kazuhiko Kakihana, Tatsuya Adachi, Toshiaki Yujiri, Shuichi Taniguchi, Jun Taguchi, Yasuo Morishima, Tokiko Nagamura, Hisashi Sakamaki, Takehiko Mori, and Makoto Murata. GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. A case-control study of bronchiolitis obliterans syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transplant International* 26 : 631-639, 2013 (June)
  - 8) Kumi Oshima, Yoshinobu Kanda, Shinichi Kako, Keiko Ohno, Satoshi Kishino, Mineo Kurokawa. Pharmacokinetics of micafungin in patients undergoing allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transplantation Infectious Disease* 15 : 323-327-260, 2013 (June)
  - 9) Junya Kanda, Leylagul Kaynar, Yoshinobu Kanda, Vinod K. Prasad, Suhag H. Parikh, Lan Lan, Tong Shen, David A. Rizzieri, Gwynn D. Long, Keith M. Sullivan, Cristina Gasparetto, John P. Chute, Ashley Morris, Scott Winkel, Jacalyn McPherson, Joanne Kurtzberg, Nelson J. Chao, Mitchell E. Horwitz. Pre-engraftment syndrome after myeloablative dual umbilical cord blood transplantation : Risk factors and response to treatment. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 926-931, 2013 (July)
  - 10) Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Kinuko Mitani, Moritaka Gotoh, Ayako Kobayashi, Naoki Kurita, Takeshi Saito, Ken Sato, Yoshinobu Kanda. Retrospective assessment of secondary prophylaxis for invasive aspergillosis in neutropenic hematology patients and identification of risk factors for relapse of fungal disease. *Scandinavian Journal of Infectious Disease* 45 : 531-536, 2013 (July)
  - 11) Rie Yamazaki, Hideki Nakasone, Yukie Tanaka, Miki Sato, Kiriko Terasako, Hidenori Wada, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Tomohito Machishima, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Junya Kanda, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Allotype analysis to distinguish the origin of varicella-zoster virus immunoglobulin G after allogeneic stem cell transplantation. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 19 : 1013-1020, 2013 (July)
  - 12) Shinichi Kako, Satoshi Morita, Hisashi Sakamaki, Hiroatsu Iida, Mineo Kurokawa, Koichi Miyamura, Heiwa Kanamori, Masamichi Hara, Naoki Kobayashi, Yasuo Morishima, Keisei Kawa, Taiichi Kyo, Toru Sakura, Itsuro Jinnai, Jin Takeuchi, Yasushi Miyazaki, Shuichi Miyawaki, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, Yoshinobu Kanda. The role of HLA-matched unrelated transplantation in adult patients with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in first remission. A decision analysis. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 1077-1083, 2013 (August)
  - 13) Makoto Murata, Hideki Nakasone, Junya Kanda, Takahiko Nakane, Tatsuo Furukawa, Takahiro Fukuda, Takehiko Mori, Shuichi Taniguchi, Tetsuya Eto, Kazuteru Ohashi, Masayuki Hino, Masami Inoue, Hiroyasu Ogawa, Yoshiko Atsuta, Tokiko Nagamura-Inoue, Hiromasa Yabe, Yasuo Morishima, Hisashi Sakamaki, Ritsuro Suzuki. Clinical factors predicting the response of acute graft-versus-host disease to corticosteroid

- therapy : an analysis from the GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 19 : 1183-1189,2013 (August)
- 14) Junya Kanda. Effect of HLA mismatch on acute graft-versus-host disease. *International Journal of Hematology* 98 : 300-308,2013 (September)
- 15) Miki Sato, Hideki Nakasone, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Kana Sakamoto, Koji Kawamura, Masahiro Ashizawa, Tomohiro Machishima, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Aki Tanihara, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, and Yoshinobu Kanda. Prediction of infectious events by the high-sensitivity C-reactive protein level before autologous hematopoietic cell transplantation for lymphoma and multiple myeloma. *Transplantation Infectious Disease* 2013 ; 15 : E169-171 (August)
- 16) Masahiro Ashizawa, Shun-ichi Kimura, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Katsuhiko Matsuura, Tsukasa Ohmori, Seiji Madoiwa, Junji Nishida, Jun Mimuro, Kaoru Tabei, Yoichi Sakata, Yoshinobu Kanda. Acquired factor V inhibitor associated with life-threatening bleeding with a mixing test result indicating coagulation factor deficiency pattern. *Hematology* 18 : 300-304,2013 (September)
- 17) Tomohito Machishima, Shinichi Kako, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Miki Sato, Masahiro Ashizawa, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Junya Kanda, Rie Yamazaki, Junji Nishida and Yoshinobu Kanda. The safety and efficacy of acute graft-versus-host disease prophylaxis with a higher target blood concentration of cyclosporine around 500 ng/mL. *Clinical Transplantation* 27 : 749-756,2013 (September)
- 18) Kana Sakamoto, Hideki Nakasone, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako-Saito, Tomohito Machishima, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinichi Kako, Junya Kanda, Rie Yamazaki, Aki Tanihara, Junji Nishida, and Yoshinobu Kanda. Evaluation of the validity of preemptive therapy against Cytomegalovirus disease based on antigenemia assay with a cutoff of 20 positive cells per two slides. *PLoS One* 8 : e73754,2013 (September)
- 19) Hideki Nakasone, Makoto Onizuka, Nobuhiro Suzuki, Nobuharu Fujii, Shuichi Taniguchi, Kazuhiko Kakihana, Tetsuya Eto, Koichi Miyamura, Hisashi Sakamaki, Hiromasa Yabe, Yasuo Morishima, Koji Kato, Ritsuro Suzuki, and Takahiro Fukuda. Pre-transplant risk factors for cryptogenic organizing pneumonia/bronchiolitis obliterans organizing pneumonia after hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 1317-1323, 2013 (October).
- 20) Koji Kawamura, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Tomohito Machishima, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Rie Yamazaki, Junya Kanda, Shinichi Kako, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Low-dose acyclovir prophylaxis for the prevention of herpes simplex virus disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transplantation Infectious Disease* 15 : 457-465,2013 (October)
- 21) Koji Kawamura, Misato Kikuchi, Kiriko Terasako, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Tomohito Machishima, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Rie Yamazaki, Junya Kanda, Shinichi Kako, Yukie Tanaka, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Comparison of the efficacy of peripheral blood stem cell mobilization using G-CSF alone from healthy donors and patients with hematologic malignancies. *Transfusion and Apheresis Science* 49 : 334-340,2013 (October)
- 22) Anthony D. Sung, Daniel T. Grima, Lisa M. Bernard, Stephen Brown, George Carrum, Leona Holmberg, Mitchell E. Horwitz, Jane L. Liesveld, Junya Kanda, Brian McClune, Paul Shaughnessy, Guido J. Tricot, Nelson J. Chao. Outcomes and costs of autologous stem cell mobilization with chemotherapy plus G-CSF vs G-CSF alone. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 1444-1449,2013 (November)
- 23) Yukie Tanaka, Rie Yamazaki, Kiriko Terasako-



- Saito, Hideki Nakasone, Yu Akahoshi, Hiroshi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinichi Kako, Junya Kanda, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Universal cytotoxic activity of a HTLV-1 Tax-specific T cell clone from an HLA-A\*24 : 02+ patient with adult T-cell leukemia against a variety of HTLV-I-infected T-cells. *Immunology Letters* 158 : 120-125, 2014 (January)
- 24) Hideki Nakasone, Yukie Tanaka, Rie Yamazaki, Miki Sato, Kiriko Terasako, Kana Sakamoto, Ryoko Yamasaki, Hidenori Wada, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Tomohito Machishima, Masahiro Ashizawa, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Aki Tanihara, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Single-cell analysis of T-cell receptor- $\beta$  repertoire of HLA-A\*2402-restricted cytomegalovirus pp65-specific cytotoxic T-cells in donor-patient pairs undergoing allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 49 : 87-94,2014 (January)
- 25) Yoshinobu Kanda, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Koji Kawamura, Yuko Ishihara, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Tomohito Machishima, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Rie Yamazaki, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, Hidekazu Tsunoda, Yoshio Omori, Masanori Nakazawa, Osamu Tanaka. Protection of ovarian function by two distinct methods of ovarian shielding for young female patients who receive total body irradiation. *Annals of Hematology* 93 : 287-292,2014 (February)
- 26) Koji Kawamura, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Tomohito Machishima, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Rie Yamazaki, Junya Kanda, Shinichi Kako, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Prophylactic role of long-term ultra-low-dose acyclovir for varicella zoster virus disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *International Journal of Infectious Diseases* 19 : 26-32,2014 (February)
- 27) Junya Kanda, Hideki Nakasone, Yoshiko Atsuta, Tomomi Toubai, Hiroki Yokoyama, Takahiro Fukuda, Shuichi Taniguchi, Kazuteru Ohashi, Hiroyasu Ogawa, Tetsuya Eto, Koichi Miyamura, Yasuo Morishima, Tokiko Nagamura-Inoue, Hisashi Sakamaki, Makoto Murata on behalf of the GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Risk factors and organ involvement of chronic GVHD in Japan. *Bone Marrow Transplantation* 49 : 228-235,2014 (February)
- 28) Junya Kanda, Gwynn D. Long, Cristina Gasparetto, Mitchell E. Horwitz, Keith M. Sullivan, John P. Chute, Ashley Morris, Michael Shafique, Zhiguo Li, Nelson J. Chao, David A. Rizzieri. Reduced-Intensity Allogeneic Transplantation Using Alemtuzumab from HLA-Matched Related, Unrelated, or Haploidentical Related Donors for Patients with Hematologic Malignancies. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 20 : 257-63,2014 (February)
- 29) Shun-ichi Kimura, Hidenori Wada, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Ryoko Yamasaki, Masahiro Ashizawa, Tomohito Machishima, Miki Sato, Kiriko Terasako, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Junya Kanda, Rie Yamazaki, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. D-index dose not predict the development of pulmonary infection in acute myeloid leukemia patients undergoing consolidation chemotherapy with high-dose cytarabine. *Hematology* (in press)
- 30) Kana Sakamoto, Hideki Nakasone, Shigeharu Tsurumi, Ko Sasaki, Kinuko Mitani, Michiko Kida, Akira Hangaishi, Kensuke Usuki, Ayako Kobayashi, Ken Sato, Mariko Karasawa-Yamaguchi, Koji Izutsu, Yasushi Okoshi, Shigeru Chiba, and Yoshinobu Kanda. Prednisone versus high-dose dexamethasone for untreated primary immune thrombocytopenia. A retrospective study of the Japan Hematology & Oncology Clinical Study Group. *Journal of Thrombosis and Thrombolysis* (in press)
- 31) Yoshihisa Koderu, Kazuhito Yamamoto, Mine Harada, Yasuo Morishima, Hiroo Dohy, Shigetaka Asano, Yasuo Ikeda, Tatsutoshi Nakahata, Toshihiko Imamura, Keisei Kawa,

- Shunichi Kato, Mitsune Tanimoto, Yoshinobu Kanda, Ryuji Tanosaki, Shintaro Shiobara, Sung-Won Kim, Koji Nagafuji, Masayuki Hino, Koichi Miyamura, Ritsuro Suzuki, Nobuyuki Hamajima, Masanori Fukushima, Akiko Tamakoshi, Joerg Halter, Norbert Schmitz, Dietger Niederwieser, and Alois Gratwohl. Peripheral blood stem cell collection from family donors in Japan : a prospective survey. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 32) Junji Tanaka, Yasuo Morishima, Yoshiyuki Takahashi, Toshio Yabe, Koji Oba, Satoshi Takahashi, Shuichi Taniguchi, Hiroyasu Ogawa, Yasushi Onishi, Koichi Miyamura, Heiwa Kanamori, Nobuyuki Aotsuka, Koji Kato, Shunichi Kato, Yoshiko Atsuta, and Yoshinobu Kanda. Effects of KIR-ligand incompatibility on clinical outcomes of umbilical cord blood transplantation without ATG for acute leukemia in complete remission. *Blood Cancer Journal* (in press)
- 33) Miki Sato, Hideki Nakasone, Kiriko Terasako-Saito, Kana Sakamoto, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Yu Akahoshi, Hirofumi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Masahiro Ashizawa, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Aki Tanihara, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, and Yoshinobu Kanda. Prediction of infectious complications by the combination of plasma procalcitonin level and localized infection before allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 34) Hideki Nakasone, Kiriko Terasako-Saito, Rie Yamazaki, Miki Sato, Yukie Tanaka, Kana Sakamoto, Masakazu Kurita, Ryoko Yamasaki, Hidenori Wada, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Tomohito Machishima, Masahiro Ashizawa, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Aki Tanihara, Junya Kanda, Shinichi Kako, Junji Nishida, Shigeki Yamada and Yoshinobu Kanda. Impact of high-/middle-molecular-weight adiponectin on the synthesis and regulation of extracellular matrix in dermal fibroblasts. *Experimental Hematology* (in press)
- 35) Yoshinobu Kanda, Junya Kanda, Yoshiko Atsuta, Shigeo Fujii, Yoshinobu Maeda, Tastuo Ichinohe, Minoko Takanashi, Kazuteru Ohashi, Takahiro Fukuda, Koichi Miyamura, Takehiko Mori, Hiroshi Sao, Naoki Kobayashi, Koji Iwato, Akihisa Sawada, Shinichiro Mori. Changes in the clinical impact of high-risk HLA allele mismatch combinations on the outcome of unrelated bone marrow transplantation. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* (in press)
- 36) Yachiyo Kuwatsuka, Yoshiko Atsuta, Mary M. Horowitz, Jiro Inagaki, Junya Kanda, Koji Kato, Katsuyoshi Koh, Mei-Jie Zhang, Mary Eapen : Donor/Source Working Group and GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation and the Center for International Blood and Marrow Transplant Research. Graft-versus-host disease and survival after cord blood transplantation for acute leukemia : a comparison of the Japanese versus Caucasian population. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* (in press)
- 37) Masahiro Ashizawa, Yu Akahoshi, Hirofumi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinichi Kako, Junya Kanda, Rie Yamazaki, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. A combination of fludarabine, half-dose cyclophosphamide, and anti-thymocyte globulin is an effective conditioning regimen before allogeneic stem cell transplantation for aplastic anemia. *International Journal of Hematology* (in press)
- 38) Shun-ichi Kimura, Yu Akahoshi, Hirofumi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako-Saito, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Rie Yamazaki, Shinichi Kako, Junya Kanda, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Antibiotic prophylaxis in hematopoietic stem cell transplantation. A meta-analysis of randomized controlled trials. *Journal of Infection* (in press)

## 和文著書

- 1) 神田善伸 血液病レジデントマニュアル 第二版  
2014年 医学書院

## 和文総説

- 1) 神田善伸 前処置と移植の実際 チーム医療のための血液がんの標準的化学療法 直江知樹、堀部敬三監修 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013年 P231-236
  - 2) 神田善伸 免疫抑制とGVHD チーム医療のための血液がんの標準的化学療法 直江知樹、堀部敬三監修 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013年 P237-244
  - 3) 神田善伸 補助療法 チーム医療のための血液がんの標準的化学療法 直江知樹、堀部敬三監修 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013年 P245-250
  - 4) 神田善伸 血液・造血器疾患 造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植の適応 内科学書(改訂第八版) 東京：中山書店、2013年 P60-65
  - 5) 神田善伸 HLA適合とドナーソース 松村到編、金倉讓総編集 ここまできた白血病/MDS治療 東京：中山書店 2013年 P99-105
  - 6) 神田善伸 移植前処置 松村到編、金倉讓総編集 ここまできた白血病/MDS治療 東京：中山書店 2013年 P106-P111
  - 7) 神田善伸 感染症とその対策(真菌) 直江知樹、小澤敬也、中尾眞二編 血液疾患 最新の治療 2014-2016 東京：南江堂 2014年 P332-336
  - 8) 木村俊一、神田善伸 血液疾患治療時の環境整備 田村和夫編集 血液疾患治療に伴う合併症対策 大阪：医薬ジャーナル社 2013年 P22-32
  - 9) 菊地美里、神田善伸 若年がん患者の現況(血液疾患・白血病、リンパ腫) 鈴木直、竹原祐志編集がん、生殖医療：妊孕性温存の診療 東京：医歯薬出版株式会社 2013年 P85-92
  - 10) 諫田淳也 GVHDのリスク因子 豊嶋崇徳編 みんなに役立つGVHDの基礎と臨床 大阪：医薬ジャーナル社 2013年 P126-136
  - 11) 寺迫桐子、神田善伸 抗胸腺グロブリンの位置づけ 豊嶋崇徳編 みんなに役立つGVHDの基礎と臨床 大阪：医薬ジャーナル社 2013年 P237-248
  - 12) 神田善伸 同種移植療法 新しい診断と治療のABC 悪性リンパ腫 島清彦編 大阪：最新医学社 2013年 P176-187
  - 13) 神田善伸 血液疾患に合併する感染症 木崎昌弘編 カラーテキスト血液病学 第2版 東京：中外医学社 2013年 P274-287
  - 14) 神田善伸 特集：絵でみる免疫学のABC 造血幹細胞移植と免疫抑制療法 JOHNS 29：481-486, 2013
  - 15) 神田善伸 化学療法、放射線治療、移植が妊孕性におよぼす影響とその対策 血液フロンティア 22：1819-1827, 2012
  - 16) 神田善伸 米国感染症学会(IDSA)の発熱性好中球減少症ガイドライン 感染症道場 2：25-31, 2013
  - 17) 神田善伸、佐藤美樹、木村俊一、赤星 佑 臍帯血移植後にカンジダ血症を発症した一例(症例検討会) 感染症道場 2：12-19, 2013
  - 18) 神田善伸 臨床血液学：今後の展望(2013年版) 造血幹細胞移植 オーバービュー 臨床血液 54：143-144, 2013
  - 19) 神田善伸 造血幹細胞移植に伴う免疫抑制状態と感染症 ICUとCCU 37：613-620, 2013
  - 20) 寺迫桐子、神田善伸 抗胸腺グロブリンの位置づけ 血液フロンティア 23：641-651, 2013
  - 21) 賀古真一、神田善伸 再発ALLの治療戦略 血液内科 66：690-697, 2013
  - 22) 神田善伸 血液疾患のクリニカル・パール Medicina 50：1556-1559, 2013
  - 23) 佐藤美樹、神田善伸 ESCMIDカンジダガイドライン2012 造血幹細胞移植後の成人患者 化学療法の領域 29：1505-1514, 2013
  - 24) 山崎理絵、神田善伸 低リスク骨髄異形成症候群に対する造血幹細胞移植の考え方 血液内科 67：343-349, 2013
  - 25) 河村浩二、神田善伸 多発性骨髄腫のガイドライン Medicina増刊号 50：315-320, 2013
  - 26) 齋藤桐子、木村俊一、野首光弘、神田善伸、若山恵、渋谷和俊 化学療法中にReversed halo sign(RHS)を呈した肺ムーコル症 血液フロンティア 23：1025-1030, 2013
  - 27) 神田善伸 造血幹細胞移植の現況と今後の展望 臨床と研究 90：1430-1435, 2013
  - 28) 仲宗根秀樹、神田善伸 GVHDとGVLの臨床細胞 45：520-524, 2013
  - 29) 木村俊一、神田善伸 海外のFNガイドラインの特徴と変遷 感染症内科 1：468-475, 2013
  - 30) 賀古真一 リンパ腫治療総論 大量化学療法・自家造血幹細胞移植 金倉讓、伊豆津宏二編 プリンシプル血液疾患の臨床 リンパ腫・骨髄腫の最新療法 東京：中山書店 2014年 P80-86
- 学会招待講演など
- 1) 神田善伸 がんと生殖に関するシンポジウム 2013—妊孕性温存の診療を考える— 血液腫瘍と生殖 日本がん・生殖医療研究会 東京 2013年4月21日



- 2) 神田善伸 第99回近畿日本血液学地方会 造血幹細胞移植の発展と臨床研究 特別講演 大阪 2013年6月22日
- 3) 神田善伸 造血幹細胞移植と各内科領域の関わり 第48回近畿支部主催生涯教育講演会 京都 2013年6月30日
- 4) 第6回日本血液学会監修研修医(初期・後期)のための血液学セミナー 全体ケーススタディ 移植 大津 2013年7月5日～7月7日
- 5) 神田善伸 持続する発熱性好中球減少症に対する経験的抗真菌治療を再考する ～無駄な抗真菌治療を安全に減らすことは可能か?～ 第75回日本血液学会総会 コーポレートセミナー 札幌 2013年10月13日
- 6) 神田善伸 血液領域における侵襲性真菌症診療 第62回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第60回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 シンポジウム 東京 2013年10月31日
- 7) 神田善伸 第5回日本血液学会監修若手臨床血液学セミナー 感染症の診断と治療 神戸 2013年11月9日～10日
- 8) 神田善伸 がんと生殖に関するシンポジウム 2014～血液疾患患者さんの妊孕性温存対策のこれからを考える～ 血液疾患患者さんの妊孕性温存の現状 ーどの選択肢をどのように活用するか? 日本がん・生殖医療研究会 東京 2014年2月2日
- 9) 神田善伸 第36回日本造血細胞移植学会総会 急性GVHDの診断とマネジメント アフタヌーンセミナー 沖縄 2014年3月8日
- 3) 蘆澤正弘、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、賀古真一、諫田淳也、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 減量CYとFDRを前処置に用いた再生不良性貧血に対する同種造血幹細胞移植症例のキメリズム解析 第75回日本血液学会総会 一般口演 札幌 2013年10月
- 4) 山崎諒子、諫田淳也、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、河村浩二、石原優子、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、町島智人、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 Comparison of garenoxacin and levofloxacin as antibacterial prophylaxis during neutropenia 第75回日本血液学会総会 一般口演 札幌 2013年10月
- 5) Shun-ichi Kimura, Yu Akahoshi, Hirofumi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako-Saito, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Rie Yamazaki, Shinichi Kako, Junya Kanda, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Impact of systemic antibiotic prophylaxis in hematopoietic stem cell transplantation recipients. A meta-analysis of randomized controlled trials. *55th ASH Annual Meeting and Exposition* Poster New Orleans December, 2013
- 6) Hiroaki Shimizu, Takayuki Saitoh, Shinichiro Machida, Shinichi Kako, Noriko Doki, Takehiko Mori, Toru Sakura Yoshinobu Kanda, Heiwa Kanamori, Shuichi Miyawaki and Shinichiro Okamoto for Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT) The outcomes of allogeneic stem cell transplantation in patients with mixed phenotype acute leukemia (MPAL) are comparable to those in acute myeloid leukemia (AML) and acute lymphoblastic leukemia (ALL) : Results of a matched-pair analysis. *55th ASH Annual Meeting and Exposition* Poster New Orleans December, 2013

#### 学会一般演題

- 1) 石原優子、諫田淳也、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、河村浩二、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、賀古真一、山崎理絵、田中香お里、渡邊邦友、西田淳二、神田善伸 AMLに対する寛解導入療法中に発症したLactobacillus rhamnosusによる口腔内感染症 第170回日本血液学会例会 2013年7月
- 2) 賀古真一、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、佐藤美樹、蘆澤正弘、町島智人、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、山崎理絵、諫田淳也、西田淳二、神田善伸 T細胞性とB細胞性の成人急性リンパ芽球性白血病で異なる、高強度化学療法の効果：メタ解析 第75回日本血液学会総会 一般口演 札幌 2013年10月
- 7) Yu Akahoshi, Shinichi Kako, Hiroshi Nakano, Tomotaka Ugai, Hidenori Wada, Ryoko Yamasaki, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Miki Sato, Masahiro Ashizawa, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Rie Yamazaki, Junya Kanda, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Effect of the

- duration between total body irradiation and stem cell infusion on the outcome of allogeneic transplantation with myeloablative conditioning *18th KSBMT Winter Meeting in Seoul*, Poster Korea February, 2014
- 8) Junya Kanda, Yoshinobu Maeda, Kazuteru Ohashi, Takahiro Fukuda, Koichi Miyamura, Shin-ichiro Mori, Yasuo Morishima, Yoshiko Atsuta, Yoshinobu Kanda The impact of HLA-mismatch direction on the outcome of unrelated bone marrow transplantation : A retrospective analysis from the JSHCT HLA working group, 2014 BMT Tandem Meetings, Oral Session, Texas, USA March, 2014
- 9) 神田善伸、諫田淳也、熱田由子、藤 重夫、前田嘉信、一戸辰夫、高梨美乃子、大橋一輝、福田隆浩、宮村耕一、森 毅彦、澤田明久、森 慎一郎  
非血縁者間骨髄移植における高リスクアレル不適合 (HR-MM) の影響の再検討 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 沖縄 2014年3月
- 10) 賀古真一、神田善伸、加藤 淳、山本 渉、加藤せい子、鬼塚真仁、横田 朗、多々良礼音、横山洋紀、萩原真紀、臼杵憲祐、後藤守孝、渡部玲子、川井信孝、齋藤貴之、金森平和、高橋 聡、岡本真一郎 移植決断時の治療方針が骨髄異形成症候群の治療成績に与える影響に関する後方視的検討 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 沖縄 2014年3月
- 11) 河村浩二、高松博幸、池田宇次、佐藤祐二、青墳信之、天野逸人、内田直之、渡辺健太郎、大野裕樹、加藤剛二、鈴木律朗、角南一貴、神田善伸 多発性骨髄腫に対する非血縁臍帯血移植の後方視的検討 : JSHCT多発性骨髄腫WG 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 沖縄 2014年3月
- 12) 河村浩二、山崎理絵、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、石原優子、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、斎藤桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、諫田淳也、賀古真一、西田淳二、神田善伸 同種造血幹細胞移植後の measles、mumps、rubellaの免疫性についての後方視的検討 第36回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 沖縄 2014年3月
- 13) 諫田淳也、前田嘉信、大橋一輝、福田隆浩、宮村耕一、森 慎一郎、森島泰雄、熱田由子、神田善伸 非血縁者間骨髄移植におけるHLA不適合方向が移植成績に及ぼす影響- JSHCT HLAワーキンググループによる後方視的解析 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 沖縄 2014年3月
- 14) 山崎理絵、仲宗根秀樹、田中ゆきえ、佐藤美樹、斎藤桐子、坂本佳奈、鶴飼知嵩、中野裕史、和田英則、石原優子、河村浩二、山崎諒子、菊地美里、蘆澤正弘、木村俊一、諫田淳也、賀古真一、西田淳二、神田善伸 同種造血幹細胞移植後CMV再活性化に關与するCMV抗体の由来解析 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般講演 2014年3月
- 15) 和田英則、諫田淳也、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、山崎諒子、佐藤美樹、蘆澤正弘、斎藤桐子、木村俊一、菊地美里、山崎理絵、賀古真一、西田淳二、神田善伸 造血幹細胞移植患者におけるシスタチンC血中濃度の有用性 第36回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 沖縄 2014年3月
- 16) 木村俊一、赤星 佑、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、斎藤桐子、仲宗根秀樹、菊地美里、山崎理絵、賀古真一、諫田淳也、西田淳二、神田善伸 造血幹細胞移植患者における全身性の抗菌薬予防投与の有用性. ランダム化比較試験を対象としたメタ解析. 第36回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 沖縄 2014年3月
- 17) 石原優子、諫田淳也、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、河村浩二、坂本佳奈、佐藤美樹、蘆澤正弘、斎藤桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 カルシニューリン・インヒビターの減量及び中止時のプレドニゾン置換によるGVHD予防の安全性、有効性の検討 第36回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 沖縄 2014年3月
- 18) 赤星佑、賀古真一、中野裕史、鶴飼知嵩、和田英則、山崎諒子、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、佐藤美樹、蘆澤正弘、斎藤桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、山崎理絵、諫田淳也、西田淳二、神田善伸 全身放射線照射から幹細胞輸注までの日数が同種造血幹細胞移植の成績に及ぼす影響 第36回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 沖縄 2014年3月

## 総合医学2

## ■ 一般・消化器外科

(2014. 1～)

## 原著

- 1) Chiba F, Soda K, Yamada S, Tokutake Y, Chohnan S, Konishi F, Rikiyama T: The importance of tissue environment surrounding the tumor on the development of cancer cachexia. *Int. J. Oncology.* 44: 177-186.

## 総説

- 1) 齊藤正昭、清崎浩一、力山敏樹：非治癒因子を有する高度進行胃癌。日本臨床 最新胃癌学-基礎と臨床の最新研究動向-IX胃癌の治療戦略 72 (増刊) 日本臨床社2014. 1. 20発行 p 464-468

## 学会発表

- 1) 齊藤正昭：当センターにおける消化器緊急手術症例に対するリコモジュリンの使用経験。第2回埼玉東部敗血症治療セミナー 2014. 1. 17 さいたま口演
- 2) 早田邦康、加納良彦、千葉文博：ポリアミンによる哺乳類のアンチエイジング。日本ポリアミン学会第5回年会。2014. 1. 23-24 千葉 特別講演
- 3) 渡部文昭：肝門部胆管腫瘍+膵頭部腫瘍。第21回東京胆道懇話会 2014. 2. 7 東京
- 4) 蓬原一茂：ER (Estrogen Receptor) 陽性HER2陰性転移性乳癌に対するホルモン療法。第27回関東DIF研究会 2014. 2. 8 さいたま 口演
- 5) 辻仲眞康、堀江久永、深野利恵子、佐々木智子、大島美津子、力山敏樹：予防的回腸ストーマ造設術にみられるストーマ排泄過多の頻度原因に関する分析。第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 2014. 2. 21-22 宮城 口演
- 6) 深野利恵子、辻仲眞康、大島美津子、佐々木智子、堀江久永、力山敏樹：パウチングと携帯用低圧持続吸引器 (J-VACTM) を用いた創設管理が有効であった術後離開創の1例。第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 2014. 2. 21-22 宮城 口演
- 7) 齊藤正昭、清崎浩一、福田臨太郎、桑原明菜、高田 理、力山敏樹：家族性大腸腺腫症症例に合併した胃底腺ポリープの癌化による多発性胃癌の1例。日本消化器病学会関東支部第328回例会 2014. 2. 22 東京 講演

- 8) 草刈 翔、野田弘志、渡部文昭、野首光弘、力山敏樹：IPNBとIPMNが合併し肝膵頭十二指腸切除を施行した1例。第60回日本消化器画像診断研究会 2014. 3. 1 東京 口演
- 9) 蓬原一茂：抗HER2療法の治療戦略と副作用対策。第11回日本乳癌学会九州地方会 2014. 3. 1 福岡 ランチョンセミナー
- 10) 柿澤奈緒：MEN1型の膵腫瘍に対して切除術を施行した1例。第20回北関東外科機能温存治療研究会 2014. 3. 1 東京 口演
- 11) 辻仲眞康：非閉塞性腸管虚血 (NOMI) の発生要因と治療に関する当院の取り組み。第50回日本腹部救急医学会 2014. 3. 7 東京 ランチョンセミナー
- 12) 小熊慶子、渡部文昭、桑原明菜、野田弘志、力山敏樹：食餌性イレウスで発症した小腸アニサキス症の1例。2014. 3. 8 東京 口演

## その他

- 1) 力山敏樹：医師の現状と魅力 ～医師を志す高校生諸君へのアドバイス～。平成25年度宮城県立仙台第二高等学校医進会講演会 2014. 2. 10 宮城 講演
- 2) 辻仲眞康：消化のしくみと下痢のメカニズム。日本オストミー協会埼玉県支部 さいたま市医療講習会 2014. 2. 16 さいたま 講演
- 3) 力山敏樹：大腸癌肝転移の外科治療。石巻大腸がんセミナー 2014. 2. 21 宮城 講演

## ■ 心臓血管外科

## ☆原著論文

- 1) Kimura N, Ohnuma T, Itoh S, Sasabuchi Y, Asaka K, Shiotsuka J, Adachi K, Yuri K, Matsumoto H, Yamaguchi A, Sanui M, and Adachi H. Utility of the Penn Classification in Predicting Outcomes of Surgery for Acute Type A Aortic Dissection. *The American Journal of Cardiology* 2014; 113: p724-730

\*以下の原著論文は、昨年の「研究だより」に掲載されなかった論文です。

- 2) Wakasa S, Matsui Y, Isomura T, Takanashi S, Yamaguchi A, Komiya T, Cho Y, Kobayashi J, Yaku H, Kokaji K, Arai H, Sawa Y. Impact of ventricular remodelling on outcomes after left ventriculoplasty for ischemic cardiomyopathy: Japanese surgical ventricular restoration group experience. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*



- 2013 ; 16 : 785-791.
- 3) Kimura N, Nakae S, Itoh S, Merk DR, Wang X, Gong Y, Okamura H, Chang PA, Adachi H, Robbins RC, Fischbein MP. Potential role of  $\gamma$   $\delta$  T cell-derived IL-17 in acute cardiac allograft rejection. *Ann Thorac Surg.* 2012 ; 94 : p542-548.
  - 4) Kimura N, Roedder S, Okamura H, Hsieh SC, Gong Y, Sarwal MM. Significance and suppression of redundant IL17 responses in acute allograft rejection by bioinformatics based drug repositioning of fenofibrate. *PLoS One.* 2013 ; 8 : e56657.
  - 5) Khatri P, Roedder S, Kimura N, De Vusser K, Morgan AA, Gong Y, Fischbein MP, Robbins RC, Naesens M, Butte AJ, Sarwal MM. A common rejection module (CRM) for acute rejection across multiple organs identifies novel therapeutics for organ transplantation. *J Exp Med.* 2013 ; 210 : p2205-2221.
  - 6) Tamura A, Adachi K, Naito K. Case Report : tqExperience with Vacuum-Assisted Wound Closure of Mediastinitis Following Graft Replacement of the Ascending Aorta : Success of Treatment by Preservative Therapy Only. *Ann Vasc Dis.* 2013 ; 6 (2) : 206-208
  - 7) Okamura H, Yamaguchi A, Morita H, Naito K, Yuri K, Adachi H. Is the threshold for postoperative prosthesis-patient mismatch the same for all prostheses? *Surg Today.* 2013 ; 43 : p871-6.
  - 8) Shiraishi M, Yuri K. Successful Surgical Repair of Stabbing Cardiac Injury. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p66-68, 2013
  - 9) Shiraishi M, Aizawa K, Sakano Y, Kaminishi Y, Ohki S, Saito T, Misawa Y. Predictive factor for mortality and morbidity of abdominal aortic aneurysm repair. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p8-15, 2013
  - 10) Shiraishi M, Morita H, Yamaguchi A, Adachi H. Tricuspid Valve Repair for a Patient with Congenital Isolated Sever Tricuspid Regurgitation. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p263-266, 2013.
  - 11) Shiraishi M, Ohki S, Muraoka A, Aizawa K, Sakano Y, Kaminishi Y, Misawa Y. Analysis of perioperative factors for neurological dysfunction in patients undergoing aortic-surgery. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p141-148, 2013
  - 12) Shiraishi M, Kimura C. Successful endoscopic repair of postoperative ileocecal intussusception in adult. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p204-206, 2013
  - 13) Shiraishi M, Muraoka A, Aizawa K, Sakano Y, Kaminishi Y, Ohki S, Saito T, Yamaguchi A, Adachi H, Misawa Y. Laboratory Studies of Perioperative Abdominal Aortic Aneurysm Repair. *Arch of Clin Exp Surg.* 2 : p71-79, 2013
  - 14) Hori D, Noguchi K, Nomura Y, Tanaka H. Enlarged coronary artery pseudoaneurysm after drug-eluting stent implantation. *Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.* 2013 ; 21 (5) : p608-611
  - 15) Hori D, Noguchi K, Nomura Y, Tanaka H. Successful endovascular treatment of ruptured bronchial artery aneurysm. Enlarged coronary artery pseudoaneurysm after drug-eluting stent implantation. *Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.* 2013 ; 21 (5) : p615-617
  - 16) Hori D, Noguchi K, Nomura Y, Tanaka H. Small incision fasciotomy in a patient in a patient with compartment syndrome and peripheral arterial occlusive disease. *Ann Thorac Cardiovasc Surg.* 2013 ; 19 (3) : p234-238
  - 17) Arakawa M, Yamaguchi A, Sakakura K, Okamura H, Ako J, Momomura S, Adachi H, SYNTAX-justified trend toward restricting coronary artery bypass grafting to more serious cases, *Journal of Thoracic and Cardiovascular* 2013 Dec 15. [Epub ahead of print]
  - 18) Arakawa M, Tatsumi E, Nishimura T. Pulsatile control of rotary blood pump and cardiac workload. *Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery.* Apr ; Vol.145 No.4 p1144-1145 2013
  - 19) 佐藤哲也, 野村陽平, 岡本信彦, 長崎 仁, 馬場秀雄, 林 憲孝, 竹島 薫, 朝見淳規, 山藤和夫, 窪地 淳, 由利康一, 安達秀雄. 正中弓状靭帯の圧迫による腹腔動脈狭窄を合併した膵十二指腸動脈瘤の十二指腸穿破の1例. *THE JOURNAL of JAPANESE COLLEGE of ANGIOLOGY* Vol. 53 Online publication December 10 ; p213-217 2013
- ☆学会発表
- 1) 山口敦司, 安達晃一, 由利康一, 松本春信, 伊藤智, 武部 学, 田島 泰, 野中崇央, 野村陽平,

- 橋本和憲, 竹内太郎, 小林祐介, 玉井宏一, 横山野武, 安達秀雄. 高齢者(80歳以上)大動脈弁狭窄症における大動脈弁置換術の術前リスク評価. 日本心臓血管外科学会雑誌 p370 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 2) 安達晃一, 山口敦司, 由利康一, 松本春信, 伊藤智, 安達秀雄. 大動脈解離による腹部・下肢臓器虚血に対して開窓目的で行う腹部大動脈人工血管置換術. 日本心臓血管外科学会雑誌 p516 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 3) 安達晃一, 山口敦司, 由利康一, 伊藤智, 安達秀雄. 冠動脈の血行再建を要した急性大動脈解離の治療成績. 第27回日本冠疾患学会学術集会 2013.12.13-14 和歌山 アバローム紀の国
- 4) 松本春信, 横山野武, 小林祐介, 玉井宏一, 中野光規, 竹内太郎, 野村陽平, 橋本和憲, 田島泰, 武部学, 木村直行, 伊藤智, 由利康一, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄. 小伏在静脈を内側アプローチで採取しspliced vein graftによるdistal bypassを施行した重症虚血肢の1例. Peripheral Artery Surgical Meeting 2014 in Kumamoto 2014.2.19 第44回日本心臓血管外科学会学術総会併設研究会 熊本
- 5) 由利康一, 野村陽平, 伊藤智, 松本春信, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄. 開窓型ステントグラフト治療における左鎖骨下動脈閉鎖症例の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌 p438 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 6) 伊藤智, 山口敦司, 野口権一郎, 田中正史, 木村直行, 由利康一, 安達晃一, 安達秀雄. 心室中隔穿孔に対する外科治療の遠隔期成績. 第27回日本冠疾患学会学術集会 2013.12.13-14 和歌山 アバローム紀の国
- 7) 伊藤智, 山口敦司, 木村直行, 由利康一, 松本春信, 安達晃一, 安達秀雄. 急性冠症候群(ACS)に対するCABG. 日本心臓血管外科学会雑誌 p159 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 8) 武部学, 由利康一, 木村直行, 竹内太郎, 安達晃一, 松本春信, 伊藤智, 田島泰, 山口敦司, 安達秀雄. 胸部大動脈瘤破裂症例に対する胸部ステントグラフト内挿術の有用性. 日本心臓血管外科学会雑誌 p183 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 9) 橋本和憲, 松本春信, 小林祐介, 中野光規, 竹内太郎, 竹内絃子, 野村陽平, 佐藤哲也, 武部学, 岡村誉, 木村直行, 伊藤智, 由利康一, 山口敦司, 安達秀雄. 自家静脈の欠如した重症虚血肢に対する人工血管+自家静脈によるdistal bypass術後の人工血管感染の1例. 第159回血管外科症例検討会 2014.2.15 東京都立健康長寿医療センター
- 10) 橋本和憲, 伊藤智, 横山野武, 小林祐介, 玉井宏一, 竹内太郎, 野村陽平, 田島泰, 武部学, 木村直行, 由利康一, 松本春信, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄. 再開胸基部置換術28例の手術成績と遠隔期成績の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌 p288 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- 11) 橋本和憲, 田中正史, 片山郁雄, 野口権一郎, 伊藤智. 開心術周術期管理におけるトルバプタンの安全性と有用性の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌 p509 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- \*以下の学会発表は、昨年「研究だより」に掲載されなかった発表です。
- 12) Yamaguchi A, Adachi K, Ito S, Arakawa M, Kobayashi Y, Wada H, Sugawara Y, Matsumoto M, Momomura S, Adachi H. The management of patients with left ventricular assist devices in a non-transplant institute. Journal of Cardiac Failure 2013 19 : S113 第17回日本心不全学会学術集会 2013.11.28 大宮ソニックシティ
- 13) Naoyuki Kimura, Satoshi Ito, Hideki Morita, Chieri Kimura, Koichi Adachi, Koichi Yuri, Harunobu Matsumoto, Atsushi Yamaguchi, Hideo Adachi. Do DeBakey classifications reflect outcomes after surgery for acute type A aortic dissection? The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery. April 4-7, 2013, Kobe, Japan.
- 14) Naoyuki Kimura, Satoshi Itoh, Koichi Adachi, Koichi Yuri, Harunobu Matsumoto, Atsushi Yamaguchi, Hideo Adachi. Utility of the Penn classification in the prediction of the treatment outcome for acute type A aortic dissection. 39<sup>th</sup> Annual Meeting of the Western Thoracic Surgical Association. June 26-29, 2013. Coeur d'Alene, Idaho, USA
- 15) Okamura H, Emrich F, Dalal A, Connolly A, Fischbein M. Long-term microRNA-29b suppression prevents aneurysm development in Marfan syndrome model mouse. American Heart Association Scientific Sessions 2013. November 19st 2013.

- 16) Hori D, Brown C, Rappold T, Hogue CW. Blood pressure both below and above the limits of cerebral autoregulation during cardiopulmonary bypass are associated with clinical delirium after cardiac surgery. Johns Hopkins Hospital ACCM Research Day 2013.
- 17) Hori D, Yuri K, Nakano M, Kobayashi Y, Yoshizaki T, Nishi S, Tajima Y, Tamura A, Nagano H, Kimura C, Matsumoto H, Adachi K, Yamaguchi A, Adachi H. Analysis of intercostal artery reconstruction in TAAA. The 21<sup>st</sup> Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery. 第21回アジア心臓血管胸部外科学会総会 神戸
- 18) 荒川 衛, 武輪能明, 西村 隆, 梅木昭秀, 安藤政彦, 岸本祐一郎, 許 俊鋭, 安達秀雄, 巽 英介: 自己心拍同期回転数制御システムによる定常流型LVADの拍動性増大効果—慢性心不全モデルによる長期検討— 第42回第人工心臓と補助循環懇話会 信州湯田中温泉 2013.2.1-2 よろづや
- 19) Arakawa M, Takewa Y, Nishimura T, Kishimoto Y, Umeki A, Ando M, Kyo S, Adachi H, Tatsumi E, Novel Electrocardiogram-synchronized Rotational Speed Change Mode in Rotary Pumps Improved Pulsatility in Chronic Heart Failure. 2013. 3. 15-17 第77回日本循環器学会学術集会 パシフィコ横浜
- 20) Arakawa M, Nishimura T, Takewa Y, Umeki A, Ando M, Date K, Atsuta Y, Kyo S, Adachi H, Tatsumi E. Enhancement of the myocardial perfusion by a novel cardiac cycle-synchronized rotation control mode in a continuous-flow LVAD in chronic ischemic heart failure model, 59th Annual Conference of the American Society for Artificial Internal Organs (ASAIO) 12th -15th June 2013
- 21) Arakawa M, Nishimura T, Takewa Y, Umeki A, Ando M, Kishimoto Y, Kishimoto S, Fujii Y, Kyo S, Adachi H, Tatsumi E. The safe program for a newly developed electrocardiogram-synchronized rotational speed control mode with continuous-flow left ventricular assist device. 51st Japan Society for Artificial Organs and 5th International Federation for Artificial Organs, September, 28th-30th, 2013
- 22) Arakawa M, Nishimura T, Takewa Y, Umeki A, Ando, M, Kyo, S, Adachi, H, Tatsumi, E: Active control of left ventricular load by a continuous-flow LVAD with a Native Heart Load Control System for longtime use, 2013.11.28-30 第17回日本心不全学会学術集会 大宮ソニックシティ
- 23) 西 智史, 由利康一, 堀 大治郎, 安達晃一, 松本春信, 山口敦司, 安達秀雄. EVAR術後、残存type 2エンドリークに対して開腹下結紮術を行った1例. 第41回日本血管外科学会学術総会 2013.5.29-31 大阪国際会議場
- 24) 西 智史, 野口権一郎, 大城規和, 白水御代, 湯地大輔, 山部剛史, 池谷佑樹, 片山郁雄, 田中正史. 高度心不全に合併した左室内血栓症に対する1手術例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 p22. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2013. 11. 2 東京ファッションタウン (TFT) ビル
- 25) 野村陽平, 堀之内宏久, 米谷和雄. 降下性壊死性縦隔炎の治療経験. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 p16. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2013. 11. 2 東京ファッションタウン (TFT) ビル
- 26) 白杉岳洋, 茂田浩平, 馬場秀雄, 東 尚伸, 橋本知実, 新井 修, 宮成 淳, 渋谷 誠, 米沢光平, 岡本信彦, 長崎和仁, 竹島 薫, 朝見淳規, 山藤和夫, 窪地 淳. 大腸憩室穿孔手術症例の検討. 第75回日本臨床外科学会総 2013. 11. 21-23. 名古屋国際会議場
- 27) 竹内太郎, 武部 学, 由利康一, 玉井宏一, 橋本和憲, 田島 泰, 小林祐介, 横山野武, 野村陽平, 野中崇央, 伊藤 智, 安達晃一, 松本春信, 山口敦司, 安達秀雄. 広範囲大動脈瘤にdebranching TEVAR を施行した1例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 p10. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2013. 11. 2 東京ファッションタウン (TFT) ビル
- 28) 横山野武, 山口敦司, 伊藤 智, 小林祐介, 由利康一, 安達秀雄. 肺動脈人工血管置換術後の肺動脈狭窄に対し自己心膜とゴアテックスの人工血管を用いた肺動脈形成術を施行した一例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 p30. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2013. 11. 2 東京ファッションタウン (TFT) ビル
- 29) 白水御代, 田中正史, 片山郁雄, 野口権一郎, 池谷佑樹, 山部剛史, 西 智史, 湯地大輔, 大城規和. 感染性心内膜炎を合併した心室中隔欠損症に対してMICS-VSD 閉鎖術を行った一例. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集



p27. 第163回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2013. 11. 2 東京ファッションタウン (TFT) ビル

☆その他

- 1) 安達秀雄：講演 大動脈解離の診療と問題点. 第11回Vascular Events研究会 2013. 12. 5 五井グランドホテル
- 2) 安達秀雄：講演 大動脈疾患の外科治療—進歩と課題—. 第12回千葉循環器クリニカルフロンティア 2013. 12. 6 ニューオータニ幕張
- 3) 安達秀雄：講演 心臓血管外科専門医制度と血管外科の修練について. 新たな専門医制度 日本心臓血管外科学会雑誌 p150 第44回日本心臓血管外科学会学術総会 2014.2.19-21 熊本
- \*以下のその他は、昨年「研究だより」に掲載されなかった講演です。
- 4) 山口敦司 コメンテーター 自己弁温存大動脈基部再建手術：新潟弁膜症研究会 2013.9.21 新潟パレスホテル (新潟)
- 5) 山口敦司 講演 僧帽弁形成術のbad scenario：第2回日本重症心不全外科研究会 2013.10.18 仙台国際センター
- 6) 松本春信：講演 「重症虚血肢に対する外科的血行再建術」. Cardiovascular Meeting 2013 夏！. 2013. 6. 13 新宿オークタワー
- 7) 松本春信：講演 「重症虚血肢に対する外科的血行再建術」. 第10回 上中越血管外科懇話会、2013.11.8、新潟 (長岡)

☆著書 総説

- 1) 安達秀雄：総説 巻頭言 志を高く！ ～激動の時代を生きる～ Japanese Journal of Cardiovascular Surgery vol.43 No.1 January 2014 p1-2
- 2) 安達秀雄：総説 巻頭文 基礎研究と臨床研究. 研究だより 第38号 自治医科大学附属さいたま医療センター p1-2 2014.1.22
- 3) 安達秀雄：著書 (外部評価委員) ST上昇型急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン (2013年改訂版). 循環器の診断と治療に関するガイドライン (2012年合同研究班報告) 2014

■ 脳神経外科

(1)その他の発表

- 1) 田中裕一：「私の原点」. 熊本赤十字病院自治医科大学臨床研修35周年記念講演会、2014年3月1日、熊本市

(2)研究会主催

- 1) 田中裕一：埼玉脳神経外科コンGRESS、2014年1月31日、さいたま

■ 整形外科

<学会発表>

- 1) 秋山 達：DPC 大規模データベース解析による骨盤悪性腫瘍手術の手術危険性決定因子の検討. 第86回日本整形外科学会学術総会、2013. 5. 23-26、広島
- 2) 秋山 達, 税田和夫, 遠藤 実, 神田翔太郎：大腿骨遠位置換術後膝蓋骨脱臼に対する救済手術を行った1例. 第46回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集、2013. 7. 15-16、東京
- 3) 河野博隆, 五嶋孝博, 篠田裕介, 津田祐輔, 池上政周, 大隈知威, 小林 寛, 小倉浩一, 澤田良子, 秋山 達, 平田 真, 今西淳悟, 山本愛一郎, 田中 栄：切除縁評価法の問題点 骨・軟部肉腫切除縁評価法の今後の課題. 第46回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集、2013. 7. 15-16、東京
- 4) Akiyama T：MORTALITY AND MORBIDITY IN MUSCULOSKELETAL MALIGNANT TUMOR PATIENTS UNDERGOING SURGERIES：A RETROSPECTIVE ANALYSIS USING THE JAPANESE DIAGNOSIS PROCEDURE COMBINATION DATABASE. ISOLS 17th Annual Meeting, September 11-13, 2013, Palazzo Re Enzo, Bologna, Italy
- 5) Akiyama T：RISK FACTORS FOR MORTALITY AND MORBIDITY FOLLOWING SURGICAL TREATMENT FOR MUSCULOSKELETAL MALIGNANT TUMORS：A RETROSPECTIVE ANALYSIS USING THE JAPANESE DIAGNOSIS PROCEDURE COMBINATION DATABASE. the CTOS 18th Annual Meeting, October 30-November 2, 2013, New York, USA
- 6) 神田翔太郎, 秋山 達, 遠藤 実, 猪股保志, 税田和夫：胸背部の激痛で発症した脊髄稽留症候群の1例. 第27回埼玉脊椎脊髄病研究会、2014. 3. 8

<講演>

- 1) Akiyama T：The non-vascularized fibular graft：A simple and successful method of reconstruction of the pelvic ring after internal hemipelvectomy, American Orthopaedic

- Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship , University of Utah, Salt Lake City, UT, USA, June 5 2013
- 2) Akiyama T : The pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system. American Orthopaedic Association – Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, Oregon Health and Science University, Portland, OR, USA, June 7 2013
  - 3) Akiyama T : The pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system. American Orthopaedic Association – Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship , University of Washington, Seattle, WA, USA, June 10 2013
  - 4) Akiyama T : The non-vascularized fibular graft : A simple and successful method of reconstruction of the pelvic ring after internal hemipelvectomy. American Orthopaedic Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, University of Colorado, Denver, CO, USA, June 12 2013
  - 5) Akiyama T : Novel therapeutic strategy for osteosarcoma targeting osteoclast : based on data of basic and translational study. American Orthopaedic Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship , University of California-San Diego, June 17 2013
  - 6) Akiyama T : The pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system. American Orthopaedic Association – Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, Naval Medical Center, San Diego, CA, USA, June 18 2013
  - 7) Akiyama T : The non-vascularized fibular graft : A simple and successful method of reconstruction of the pelvic ring after internal hemipelvectomy. American Orthopaedic Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, UCLA, Los Angeles, CA, USA, June 19 2013
  - 8) Akiyama T : Novel therapeutic strategy for osteosarcoma targeting osteoclast : based on data of basic and translational study. American Orthopaedic Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, Cedars-Sinai Medical Center, Los Angeles, CA, USA, June 20 2013
  - 9) Akiyama T : The pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system. American Orthopaedic Association – Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, University of California – San Francisco, San Francisco, CA, USA, June 24 2013
  - 10) Akiyama T : he non-vascularized fibular graft : A simple and successful method of reconstruction of the pelvic ring after internal hemipelvectomy. American Orthopaedic Association –Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, Stanford University, Stanford, CA, USA, June 26 2013
  - 11) Akiyama T : The pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system. American Orthopaedic Association – Japanese Orthopaedics Association Exchange Traveling Fellowship, Reno Orthopaedic Clinic, Reno, NV, USA, June 27 2013
  - 12) 秋山 達：骨軟部領域の疾患と画像診断. 第25回 メディカルスキャニング・イメージング研究会, 大宮ソニックシティ, 2013. 11. 21
  - 13) 秋山 達：骨盤腫瘍手術における工夫とその応用. 第17回 埼玉整形外科手術手技研究会, ラフレさいたま, 2013. 12. 5
  - 14) 秋山 達：he pelvic and sacrum tumor resection assisted by CT based navigation system : our preliminary study. 2nd Japan-Korea Musculoskeletal Oncology Forum, ホテルヴィラフォンテーヌ カンファランスセンター, 2014. 2. 7
- <論文>
- 1) Ogura K, Goto T, Imanishi J, Shinoda Y, Okuma T, Tsuda Y, Kobayashi H, Akiyama T, Hirata M, Yamamoto A, Kawano H. ; Neoadjuvant and adjuvant chemotherapy with modified mesna, adriamycin, ifosfamide, and decarbazine (MAID) regimen for adult high-grade non-small round cell soft tissue sarcomas. Int J Clin Oncol. 2013 Feb ; 18 (1) : 170-6.
- <著書・総説>
- 1) 秋山 達、税田和夫：パズパニブ投与により重篤な血小板減少症をきたしたと考えられる一例. Soft Tissue Sarcoma Journal Vol. 3 autumn pp11-12、2013Case Report

- 2) 秋山 達：“学会を聞く”「第46回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会」；臨床雑誌「整形外科」64.12 1341-43、(11月号、第770冊)〔2013年11月1日〕

## ■ 耳鼻咽喉科

### <原著論文>

- 1) Shinnabe A, Yamamoto H, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Kanazawa H, Yoshida N, Iino Y. : Differences in clinical characteristics of fallopian canal dehiscence associated with pars flaccida and pars tensa cholesteatomas. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, Sep27,2013 [Epub ahead of print]
- 2) Shinnabe A, Yamamoto H, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Kanazawa H, Yoshida N, Iino Y. : Fallopian canal dehiscence at pediatric cholesteatoma surgery. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, Oct26,2013 [Epub ahead of print]
- 3) Kanazawa H, Yoshida N, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Kodama K, Shinnabe A, Iino Y. : Risk factors for eosinophilic otitis media in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis. *Int. Adv. Otol.* 9 : (3) 353-358, 2013
- 4) Yoshida N, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Shinnabe A, Kanazawa H, Iino Y. : Reversible cochlear function with ANCA-associated Vasculitis Initially Diagnosed by Otologic Symptoms. *Otol Neurotol.* 35 (1) : 114-20, Jan 2014
- 5) Iino Y. : Reply to Comments on “Anti-IgE Therapy for Eosinophilic Disorders” . *Otol Neurotol.* 35 (1) : 191, Jan 2014
- 6) Kanazawa T, Watanabe Y, Komazawa D, Indo K, Misawa K, Nagatomo T, Shimada M, Iino Y, Ichimura K. : Phonological outcome of laryngeal framework surgery by different anesthesia protocols : a single surgeon experience. *Acta Otolaryngol.* 134 (2) : 193-200, Feb 2014

### <学会発表>

- 1) Shinnabe A, Yamamoto H, Hara M, Hasegawa M, Matsuzawa S, Kanazawa H, Yoshida N, Iino Y. : Differences in clinical characteristics of fallopian canal dehiscence associated with pars flaccida and pars tensa cholesteatomas.

the 29th Politzer Society Meeting, 14-17<sup>th</sup> November, 2013, pp96, Antalya.

- 2) Hara M, Yamamoto H, Hasegawa M, Matsuzawa S, Shinnabe A, Kanazawa H, Yoshida N, Iino Y. : Clinical study of pediatric chronic otitis media : Experience of 59 surgical cases. the 29th Politzer Society Meeting, 14-17<sup>th</sup> November, 2013, pp83, Antalya.
- 3) Iino Y. : Update in Pediatric Otolaryngology. The 12th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Symposium 8, 5-7<sup>th</sup> December, 2013, pp29, Taipei, Taiwan.
- 4) 金沢弘美、吉田尚弘、飯野ゆき子：好酸球性中耳炎における中耳貯留液内の特異的IgE抗体について。第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, pp128, 2014年2月8日, 徳島

### <その他>

- 1) 飯野ゆき子：講演「小児急性中耳炎の診療ガイドラインについて」札幌市耳鼻咽喉科医会 学術講演会, 2014年1月18日, 札幌
- 2) 新鍋晶浩：一般演題「ダウン症児に対する鼓室形成術」第7回埼玉上気道疾患研究会, 2014年1月23日, さいたま市
- 3) 飯野ゆき子：特別講演2「好酸球性中耳炎の臨床～関連疾患を含めて」第32回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー研究会, 2014年1月25日, 静岡
- 4) 飯野ゆき子：講演「難治性中耳炎の臨床」第2回慶耳会学術講演会, 2014年2月1日, 東京
- 5) 飯野ゆき子：講演「小児中耳炎に関するトピックス」藤沢小児科医会臨床研究会, 2014年2月27日, 神奈川

### <著者・総説>

- 1) 飯野ゆき子：特集・治療アルゴリズムにそった小児滲出性中耳炎の取り扱い－滲出性中耳炎の治療アルゴリズムの提案. *JOHNS30* (1) : 23-24, 2014.
- 2) 新鍋晶浩：特集・先天異常をもつ症例の病態とその対応－ダウン症児. *JOHNS30* (1) : 83-88, 2014.
- 3) 新鍋晶浩、飯野ゆき子：特集・耳鼻咽喉科外来におけるインフォームド・コンセント－外来耳科手術におけるインフォームド・コンセント. *MB ENTONI*, 163 : 17-21, 2014.
- 4) 飯野ゆき子：特集・外来処置の秘訣－耳処置, 鼓室処置. *JOHNS30* (3) : 275-78, 2014.



## ■ 眼科

## ☆原著論文

- 1) Ota A, Kakehashi A, Toyoda F, Kinoshita N, Shinmura M, Takano H, Obata H, Matsumoto T, Tsuji J, Dobashi Y, Fujimoto W Y, Kawakami M, and Kanazawa Y Effects of Long-Term Treatment with Ranirestat, a Potent Aldose Reductase Inhibitor, on Diabetic Cataract and Neuropathy in Spontaneously Diabetic Torii Rats Journal of Diabetes Research 2013 ; Article ID 175901, 8 pages, 2013
- 2) 本多智美、石井里実、長谷川哲也、渡辺綾子、齊藤恵美、山口亜矢、竹澤美貴子、手塚聡一、梯彰弘：原因不明の視力低下患者に対してERG検査を行い確定診断に至った疾患の割合について。日本視能訓練士協会誌 42：109-113、2013

## ■ 産婦人科

## 論文発表

- 1) Mikami Y, Takagi K, Itaya Y, Ono Y, Matsumura H, Takai Y, Seki H. Post-partum recovery course in patients with gestational hypertension and pre-eclampsia. J Obstet Gynaecol Res. 2014 Jan 15. [Epub ahead of print]
- 2) Matsumura H, Takagi K, Seki H, Ono Y, Ichinose S, Masuko H, Fukatsu M, Miyashita A, Mera A. Placental transfer of intravenous nicardipine and disposition into breast milk during the control of hypertension in women with pre-eclampsia. Hypertens Pregnancy. 33 (1) : 93-101. 2014
- 3) Gomi Y, Takagi K, Matunaga S, Matsumura H, Saito M, Seki H. Pregnancy complicated by focal nodular hyperplasia : a case report of one woman over two consecutive courses of pregnancy. Clinical Case Reports. 1 (1) : 38-41. 2013

## 学会発表

- 1) Konno, R, Sasaki, Y, Iwanari, O. Long term predictive values of cytology and HPV testing in cervical cancer screening - A population based study in Japan. 18th International Congress of Cytology, Paris France, May 26-30, 2013.
- 2) Konno, R. Assessment of a 5-year cervical screening interval with HPV testing and cytology in Japan. European Research

Organization on Genital Infection and Neoplasia (EUROGIN) 2013, Florence, Italy, Nov. 3-6, 2013.

- 3) Konno, R. Activity of Japanese expert board for eradication of cervical cancer for national immunization program and HPV screening. European Research Organization on Genital Infection and Neoplasia (EUROGIN) 2013, Florence, Italy, Nov. 3-6, 2013.
- 4) Konno, R. Update on safety of cervical cancer vaccine. The 1st Cervical Cancer Academy with Cervarix, Korea, Nov. 30 - Dec. 1, 2013.
- 5) 根津幸穂, 西本綾子, 林 修次, 加藤淳彦, 伊藤恒夫, 岡林佐知, Yasmin Lubna, 満下淳地, 根東 攝, 遠藤美香, 山海 直, 今野 良. カニクイザルにおける子宮内膜症外科的誘因モデルの作出. 第35回日本エンドメトリオーシス学会, 鹿児島, 2014年1月25-26日.
- 6) 中島千絵, 根津幸穂, 鈴木由梨奈, 近澤研郎, 満下淳地, 今野 良. Herlyn-Werner-Wunderlich syndromeの一例. 第15埼玉県産婦人科内視鏡研究会, さいたま, 2014年2月1日.
- 7) Konno, R. HPV vaccine safety and the crisis in Japan. The 19th World Congress on Controversies in Obstetrics, Gynecology & Infertility (COGI), Macau, Feb. 20-23, 2014.

## 著書、総説

- 1) 今野 良. 子宮頸がん征圧の取り組み. 千葉県小児科医会会誌, 44 : 3-5, 2013.
- 2) 今野 良. ヒトパピローマウイルス (子宮頸がん予防) ワクチン. 渡辺 彰, 尾内一信 (編), そこが知りたい! 成人の予防接種パーフェクト・ガイド, 68-75, 2014. 診断と治療社

## その他

- 1) 今野 良. 子宮頸がんワクチン～安全性と有効性～. 子宮頸がん予防セミナー, 北海道, 2013年11月22日.
- 2) 今野 良. 思春期からの子宮頸がん予防・啓発活動. 日本助産師会研修会 助産師として知っておきたい予防接種の最新知識, 大阪, 2013年12月14日.
- 3) 今野 良. 子宮頸がんワクチンのアップデート. 平成25年度日本産婦人科医会近畿ブロック協議会, 滋賀, 2014年1月19日.
- 4) 今野 良. 【特別講演】HPVワクチン アップデート～安全性と有効性～. 第87回大和免疫・アレルギー研究会, 奈良, 2014年1月21日.

- 5) 今野 良. 子宮がん検診の基本と最近の話題. 平成25年度大宮医師会子宮がん検診委員会学術講演会, さいたま, 2014年1月30日.
- 6) 今野 良. 【特別講演】子宮頸がんワクチン～安全性と有効性～. 第19回市川産婦人科懇話会, 千葉, 2014年2月7日.

## ■ 麻酔科・集中治療部

### 論文

- 1) Kimura N, Ohnuma T, Itoh S, Sasabuchi Y, Asaka K, Shiotsuka J, Adachi K, Yuri K, Matsumoto H, Yamaguchi A, Sanui M, Adachi H. Utility of the penn classification in predicting outcomes of surgery for acute type a aortic dissection, *Am J Cardiol.* 2014 : 113 (4) : 724-30.
- 2) Suga Y, Uchino S, Saito K, Iwai K, Kase Y, Sanui M, Takinami M. Arterio-vena caval fistula detected by monitoring of transpulmonary thermodilution curves, *J Anesth.* 2014 : [Epub ahead of print].
- 3) Ohnuma T, Kimura N, Sasabuchi Y, Asaka K, Shiotsuka J, Komuro T, Mouri H, Lefor AT, Adachi H, Sanui M. Lower heart rate in the early postoperative period does not correlate with long-term outcomes after repair of type A acute aortic dissection, *Heart Vessels.* 2014 : [Epub ahead of print].

### 学会発表

- 1) Yasuda H, Sanui M, Fujitani S, Comparison of three cutaneous antiseptic solutions for the prevention of catheter colonization, 43rd Critical Care Congress, San Francisco, CA, USA, 2014. 1. 9-13
- 2) Mouri H, Nagashima M, Koyama H, Komuro T, Ohnuma T, Iizuka Y, Masuyama T, Sato M, Sanui M, A high-flow nasal cannula may prevent severe hypoxia during emergency intubation in the ICU, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 3) Sato M, Sanui M, Koyama H, Komuro T, Mouri H, Ohnuma T, Masuyama T, Yanase F, Introduction of prevention bundles for nonocclusive mesenteric ischemia, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1

- 4) Yasuda H, Uchino S, Sanui M, How low is too low? The lower limit of intensity to control uremia during CRRT, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 5) Koyama H, Saga T, Ishii Y, Tateda K, Sato M, Masuyama T, Iizuka Y, Ohnuma T, Mouri H, Komuro T, Sanui M, Fatal infection caused by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* sequence type (ST) 398, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 6) Masuyama T, Sanui M, Iizuka Y, Ohnuma T, Komuro T, Mouri H, Koyama H, Sato M, Nagashima M, Yanase F, Lefor AT, Prolonged weakness in a patient with hyperthyroidism and sepsis, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 7) Komuro T, Sanui M, Mouri H, Ohnuma T, Nagashima M, Koyama H, Masuyama T, Sato M, Iizuka Y, Kawamura A, Yanase F, The association between protein intake and serum urea nitrogen/creatinine ratio, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 8) Iizuka Y, Sanui M, Nagashima M, Koyama H, Komuro T, Mouri H, Ohnuma T, Masuyama T, Sato M, Kawamura A, Matsuo K, Pre-induction pulse pressure predicts the postoperative atrial fibrillation after CABG, the International Scientific Congress of Intensive Care and Critical Care Medicine, Kyoto, 2014. 2.27-3.1
- 9) 讚井將満. 呼吸療法における集中治療への臨床工学技士のこだわり. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日-3月1日 (シンポジウム座長)
- 10) 讚井將満, 斎藤伸行. 我々の人工呼吸器離脱プロトコールがこうなった理由. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日-3月1日 (パネルディスカッション)
- 11) 讚井將満. 集中治療最新文献厳選41. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日-3月1日 (ワークショップ座長)
- 12) 塩塚潤二. 集中治療最新文献厳選41: 循環器・心肺蘇生. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日-3月1日 (ワークショップ)
- 13) 石岡春彦. 集中治療最新文献厳選41: 感染症. 第

- 41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ワークショップ)
- 14) 讚井將満. ICUにおける賢いアミオダロンの使い方. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (教育セミナー)
- 15) 堀部昌靖, 佐々木満仁, 讚井將満. 重症急性肺炎に対する局所臍動注療法についての多施設観察研究. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)
- 16) 早川峰司, 飯塚悠祐, 齋藤慎二郎, 滝本浩平, 工藤大介, 山川一馬, 讚井將満, 内野滋彦, 真弓俊彦. 敗血症性DICに対する治療効果の検証: 多施設共同後ろ向き観察研究 (Japan SEPTIC DIC study) の計画. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)
- 17) 齋藤伸行, 讚井將満. 人工呼吸療法に関する疫学研究. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)
- 18) 讚井將満, 飯塚悠祐, 大沼 哲, 小室哲也, 毛利英之, 小山洋史, 増山智之, 佐藤瑞樹, 長島道生, 築瀬史貴. tele-ICUシステム導入の試み. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)
- 19) 村田洋章, 米澤裕子, 讚井將満, 山口庸子, 土屋留美, 八木橋智子, 中山和弘, 高橋 理, 瀧浪將典, 高島尚美. 心臓血管手術患者における術前の心理状態やストレス対処力と術後せん妄との関連分析. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)
- 20) 本田康裕, 山口庸子, 村田洋章, 齋藤慎二郎, 飯塚悠祐, 讚井將満, 八木橋智子. ICUにおける体重測定は正確か? 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2014年2月27日 - 3月1日 (ポスター発表)

## ■ 病理部

### [論文]

- 1) 石井 彰, 菅原 斉, 渡辺珠美, 松本充也, 松林洋志, 出光俊郎, 兵頭隆史, 山田茂樹, 川上正舒. 臓器別専門外来でのReview of systems聴取の重要性が示唆されたAmelanotic melanomaの1剖検例. 自治医科大学紀要 34: 129-134, 2012.
- 2) 蛭田昌宏, 野首光弘, 松本吏弘, 大竹はるか, 阿部郁, 山田茂樹. 回腸 - 盲腸切除を行った腸管型Behcet病の1例. 診断病理 29: 159-163, 2012.
- 3) 渡辺恭孝, 小山信一郎, 工藤史明, 三輪千尋,

- 渡辺珠美, 石井 彰, 菅原 斉, 大河内知久, 田中 修, 蛭田昌宏, 土橋 洋, 山田茂樹. CPC 日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は? 頭痛・精神症状で発症し, 診断に苦慮した肺腺癌原発癌性髄膜炎の1剖検例. THE LUNG-perspectives 20: 106-111, 2012.
- 4) 河野哲也, 中村啓子, 大木麻衣, 山田茂樹. スライドカンファレンス 臍管内乳頭粘液性腫瘍の一例 (高分化腺癌の鑑別ポイントを中心に). 日本臨床細胞学会埼玉県支部会誌 30: 33-36, 2012.
  - 5) 平嶋洋斗, 根津幸穂, 芝田 恵, 大井朝子, 林由梨, 鈴木有紀, 坂田麻理子, 満下淳也, 野首光弘, 山田茂樹, 河野哲也, 今野 良. 診断に細胞診が有用であった進行子宮頸部腺癌の2例. 埼玉産科婦人科学会雑誌 42: 115-119, 2012.
  - 6) 野首光弘, 平井 勝, 齋藤公俊, 松崎 敦, 小林裕, 山田茂樹. 水腎症をきたした膀胱内侵襲性血管粘液腫. 臨床泌尿器科68: 53-56, 2014.

## ■ 歯科口腔外科

### I. 学会発表

- 1) 宮城徳人, 井上恵美, 林 宏美, 杉浦康史, 早坂純一, 土屋欣之, 伊藤弘人, 野口忠秀, 大橋一之, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 終末期口腔癌患者における当科での緩和医療の現状. 第32回日本口腔腫瘍学会・学術大会, 札幌, 2014年1月23, 24日. (プログラム抄録集 p217)
- 2) 宗正憲和, 野口忠秀, 土屋欣之, 小澤通子, 渡辺秀紀, 土肥昭博, 早坂純一, 篠崎泰久, 伊藤弘人, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 口腔扁平上皮癌に対しての肩甲骨筋上顎部郭清の予後検討. 第32回日本口腔腫瘍学会・学術大会, 札幌, 2014年1月23, 24日. (プログラム抄録集 p264)

### II. 講演

- 1) 小佐野仁志 演題: 歯・口腔と健康 平成25年度第3回市民公開講座、自治医科大学附属さいたま医療センター講堂、2014年1月26日.



## 編集後記

今回の発行に際しては、大変お忙しい中、医療安全管理室長の遠山教授に巻頭言をお願いいたしました。また、多くの先生方から投稿いただき、ご協力ありがとうございました。研究だよりを通して、センターの研究等の状況を発信していきたいと思っております。

さて、二月にロシアのソチでオリンピックが開催され、感動がまだ脳裏をよぎっております。メダルを取った人、また、予想に反してメダルを取れなかった人たちに対して、今までの努力に対して拍手を送りたいものです。(オリンピックには、魔物が棲んでいると言われていますが?)

平成26年度が始まりました。新入職員が入り、また、職員の入れ替わりがあり、各職場は、まだ落ち着いていないことと思っております。情報を共有し、安全な職場にしていきたいものです。

(T)

自治医科大学附属さいたま医療センター  
研究だより 第39号

発行日 平成26年4月18日  
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター  
発行責任者 センター長 百村 伸一  
編集 事務部 総務課  
BSL 宿舎・研修施設事務室  
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847  
TEL. 048-647-2111  
FAX. 048-648-5166  
題 字 百村 伸一 センター長

印刷 第一印刷(株)